

平成 23 年度
日耳鼻福岡県地方部会
委員会報告

【平成 23 年度学術委員会活動報告】

委員長 梅野 博仁

平成 23 年度福岡県地方部会学術委員会会議

日時 平成 24 年 2 月 14 日 (火)

場所 博多都ホテル

1. 学術講演会について

いくつかの要望事項が出され、下記の項目を地方部会総会にて報告することが確認された。

- 1) 日医医学講座の生涯教育講座の参加票の発行が行われないことがあるため (特に 4 月)、発行して欲しい。
- 2) 学術講演会の発表内容を各演題 400 字以内程度にまとめて、福岡県地方部会のホームページに掲載して欲しい。できれば図入りで。
- 3) 現在 12 月に行われているシンポジウム形式の発表は、担当大学の状況により時々施行して欲しい。
- 4) 教授の教育講演を行って欲しい。
- 5) 担当校、連絡先をプログラムに明記して欲しい。
- 6) 学生や初期研修医の参加を無料として、積極的に促して欲しい。他科医師が参加できるような講演内容も考慮して欲しい。

2. その他

なし

【平成 23 年度保険医療委員会報告】

委員長 吉峯 晃一

平成 23 年 6 月 2 日 第 1 回福耳会社研委員会 地方部会保険医療委員会

平成 23 年度・平成 24 年度の委員会構成について
日耳鼻九州ブロック保険医療委員会の提出議題について
福耳会保険診療講習会について
保険診療調査について

平成 23 年 7 月 10 日 日耳鼻九州ブロック保険医療委員会
福岡県地方部会（久留米大学筑水会館）

福岡県 要望事項 5 項目 質問事項なし

平成 23 年度 9 月 23 日 第 6 回日耳鼻保険医療委員会全国会議

○平成 22 年度日耳鼻実態調査と質疑応答

全 国	582 施設	採用数 538	採用率 92.4%
福岡県	24 施設	採用数 23	採用率 95.8%

○全国会議

九州 質問事項 2 項目 要望事項 13 項目

平成 23 年 1 月、診療報酬改定のために外保連へ要望項目提出
新設 8 項目改定 8 項目特定医療材料 16 項目、
日医には 10 項目の要望事項を提出した。

平成 23 年 9 月 29 日 第 2 回福耳会社研委員会・地方部会保険医療委員会

保険医講習会について
医会協議会について
第 6 回日耳鼻保険医療委員会全国会議の報告
福岡県耳鼻咽喉科保険調査について

平成 24 年度 1 月 28 日 平成 23 年度日耳鼻保険医療委員会
ワークショップ及び全国会議

○ワークショップ：

演題「外保連・DPCの取り組みと現状」司会 担当理事 高橋 姿

1. 手術委員会 担当理事 村上信吾
2. コーディングと医療材料・医療機器 委員 中川 肇
3. 処置委員会 委員 春名真一
4. 検査委員会 委員 守本倫子
5. DPC 委員 山本昌彦

○保険医療委員会活動報告 委員長 内田 寛

○全国会議：

演題「耳鼻咽喉科保険医療における近年の動向」

日耳鼻保険医療委員会相談役 竹中 洋

平成 24 年 2 月 8 日 第 3 回福耳会社研委員会 地方部会保険医療委員会

保険医療の現状と今後の課題について

日耳鼻保険医療委員会ワークショップ及び全国会議の報告

保険指導講習会について

効能・効果の適応外薬剤の使用について

法令順守について

平成 24 年 3 月 20 日 平成 24 年度社会保険診療報酬改定の伝達会議

1. 外保連経由 中医協医療技術評価分化学会提出要望事項

新規保険収載の評価を行う優先度が高いと考えられる事項として

◎新設要望 8 項目

浮遊耳石置換法

高解析度赤外線 CCD を用いた眼振・異常眼運動検査と記録

耳下腺混合腫瘍摘出術における顔面神経の術中モニタリング加算

経耳的聴神経腫瘍摘出術における顔面神経の術中モニタリング加算

◎改訂要望 5 項目

該当なし

◎特定医療材料

マイクロデブリッター用各種ブレード

2. 日本医師会要望項目

◎要望 10 項目 重点 3 項目

赤外線 CCD を用いた眼振・異常眼球運動検査と記録の新設（重点）

眼振検査施行下での浮遊耳石置換法の新設

特定保険材料マイクロデブリッター用各種ブレードの新設

3. 基本診察料の変遷について

平成 24 年度診療報酬改定に係る答申書付帯意見として、「初再診料及び入院基本料等の基本診察料について、コスト調査分科会報告等も踏まえ、その在り方について検討を行うこと」が盛り込まれた

【平成 23 年度学校保健委員会活動報告】

委員長 渡辺 滋之

○平成 23 年度第 1 回福耳会・地方部会合同学校保健委員会

日時：平成 23 年 5 月 12 日（木）午後 7 時 30 分 会場：都ホテル

「出務」

①第 55 回九州ブロック学校保健・学校医大会

平成 23 年 8 月 7 日（日）大分市 渡辺滋之

②第 42 回日本医師会全国学校保健・学校医大会

平成 23 年 10 月 29 日（土）静岡市 渡辺滋之

③平成 23 年度日本耳鼻咽喉科学会学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会

平成 24 年 1 月 28 日（土）・29 日（日）東京 東海大学校友会館 富田和英 渡辺滋之

○第 13 回福岡県耳鼻咽喉科学校医研修会

開催日：平成 23 年 7 月 23 日（土）午後 5 時～7 時 20 分 懇親会～8 時 20 分 都ホテル

参加者 76 名

講演Ⅰ 「耳鼻咽喉科領域の小児心身症について」

演者 富田醫院 院長 富田伸先生

座長 学校保健委員会担当理事 渡辺滋之

講演Ⅱ 「小児アレルギーの診療における留意点」

演者 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科頭頸部外科学教授
黒野祐一先生

座長 学校保健委員会担当理事 平川直也

○平成 23 年度第 2 回福耳会・地方部会合同学校保健委員会

日時：平成 23 年 11 月 17 日（木）

会場：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 紙与博多ビル 4F

「報告事項」

1. 第 55 回九州ブロック学校保健・学校医大会：渡辺滋之

詳細は 第 55 回九州ブロック学校保健・学校医大会－沖縄県医師会－日本医師会
で検索

2. 第 42 回日本医師会全国学校保健・学校医大会：渡辺滋之

詳細は 第 42 回全国学校保健・学校医大会 in 静岡 で検索

3. 平成 23 年度日本耳鼻咽喉科学会学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会

東京 東海大学校友会館：富田和英 渡辺滋之

1 月 28 日（土）学校保健全国代表者会議

委員会報告

①平成 23 年度日耳鼻学校保健委員会活動報告および平成 24 年度事業計画（案）

委員長 宇高二良

②日本医師会学校保健委員会ならびに日本学校保健報告 委員 大島清史

③第 42 回日本医師会全国学校保健・学校医大会報告 委員 上村正行
協議

「学校保健での音声障害の検診法」の改訂について解説、討議、総括
1月 29 日（日）学校保健研修会

「福島原発の事故から放射線被爆を考える」

東京女子医大学放射線腫瘍科教授 三橋 紀夫

座長 吉原 俊雄

「震災を経験した子供たちを支えるために～現場における気付きと対応～」

仙台市精神保健福祉総合センター所長 林 みず穂

座長 中島 格

○平成 23 年度第 3 回福耳会・地方部会合同学校保健委員会

日時：平成 24 年 2 月 20 日（水）

場所：大日本住友製薬株式会社福岡事業所

「協議事項」

平成 24 年度第 5 6 回九州ブロック学校保健学校医大会

平成 24 年 8 月 5 日（日）福岡市 ホテルニューオータニ博多

【耳鼻咽喉科部門】

形式：パネルディスカッション

テーマ：『難聴児の現状とその対応』

パネリスト：久留米大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室講師 上田祥久

ことばの教室通級指導教室担当 東欣正

難聴特別支援学級担任 久保田尚子

九州リオン株式会社営業業務部長 西元克茂

座長：福岡県耳鼻咽喉科専門医会会長 福與和正

【平成 23 年度福岡県地方部会福祉医療委員会報告】

委員長 池田 宏之

1. 平成 23 年 6 月 9 日(木)に第 1 回地方部会・福耳会合同福祉医療委員会を開催した。

○報告事項

- 1) 五孔会に於ける補聴器適正購入支援システム準備委員会報告
末吉委員長より現在の進行状況の説明が行われた。

○協議事項

- 1) 九州連合地方部会（久留米大学）の際の補聴器相談医更新のための講習会について
麻生委員より平成 23 年 7 月 10 日開催の講習会について報告があった。
- 2) 聴覚検診マニュアル配布について
新たに耳鼻咽喉科医のための 3 歳児健康診査の手引きを作成し、配布することとした。
- 3) 福岡県言語聴覚士会の対応について
池田委員長が窓口となることとした。
同会の「言語聴覚の日」無料相談会開催にあたり出動医の人選を行った。

その他

次回開催にあたりこれまでの活動の総括を報告することとした。

2. 平成 23 年 11 月 11 日(金)に第 1 回地方部会・福耳会合同福祉医療委員会を開催した。

○報告事項

- 1) 五孔会に於ける補聴器適正購入支援システム準備委員会報告
末吉委員長より現在の進行状況の説明が行われた。
- 2) 平成 23 年度高齢者食機能支援関連職種との実務協議会（7 月 23 日）報告
野上委員より報告があった。
- 3) 福岡県障害者更生相談所の現状について（末吉委員）
相談所の沿革、耳鼻咽喉科嘱託医の業務内容、身体障害者巡回沿相談の廃止、障害者自立支援法について説明があった。
- 4) 福岡市障害者更生相談所について（山下委員）
耳鼻咽喉科嘱託医の業務内容、判定の件数等について説明があった。
- 5) 北九州市障害者更生相談所について（佐藤委員）
耳鼻咽喉科嘱託医の業務内容、来所判定の基準、判定の件数等について説明があった。乳幼児の等級について異議申し立てがあった事例について詳しい説明があった。
- 6) 音声・言語部門について（藤田委員）
第 55 回九州ブロック学校保健・学校医大会のパネルディスカッションより「学校保健の現場における小児ことばの障害への対応」について説明があった。

7) 乳幼児部門について (川口博委員)

三歳児検診(厚労省方式、ささやき声採用)への統一化についての説明、新スク後の流れについて調査中であることが説明された。

8) 補聴器部門について (麻生委員)

福岡県地方部会開催の補聴器相談医講習会の参加人数、単位取得医師数について説明があった。

3. 平成23年度日耳鼻福祉医療・成人老年委員全国会議に出席した。

1) 講演「構音障害の診断と治療」

広瀬 肇 (大和徳洲会病院)

2) 協議事項

1. 補聴器診療情報提供書について

聴覚医学会の原案を元に日耳鼻が書式を作成し平成24年6月の補聴器キーパーソン会議にて提示する。

2. 補聴器給付について

岡山県の事例について説明が行われた。

【平成 23 年度 補聴器キーパーソン活動報告】

麻生 正美

第 37 回全国身体障害者福祉医療講習会

第 17 回補聴器キーパーソン全国会議

日 時：平成 23 年 6 月 11 日（土）、12 日（日）

場 所：長野県松本市美ヶ原温泉ホテル翔峰

議 題：1、補聴器適合検査指針について

適合検査に使用する騒音の CD を作成した

AUDIOLOGY JAPAN 平成 23 年第二号に申込用紙が印刷されている

会員 5,000 円、非会員 6,000 円 聴覚医学会に申し込む

2、補聴器相談医更新の手続きについて

更新の申請は毎年 1 月 20 日から 2 月 10 日に行う

更新に該当する補聴器相談医は、更新料 3,000 円を添えて

所属地方部会会長に申請

地方部会長は該当する相談医のうち、更新が適当と認められるリストを

日耳鼻理事長に提出する

日耳鼻理事長が認定証を交付する

地方部会長が認定書を各相談医に送付する

地方部会長は、更新費用のうち日耳鼻事務費に該当する費用（1,000 円）

を一括して日耳鼻に送付する。なお残りの 2,000 円は地方会事務費とする

補聴器相談医更新のための講習会

日 時：平成 23 年 7 月 10 日（日）

場 所：久留米大学筑水会館大ホール

参加者：総数 191 名

内訳 福岡 88、佐賀 15、長崎 15、熊本 22、大分 12、宮崎 7、鹿児島 20

沖縄 10、山口 2

H23 年度福祉医療・成人老年委員会

日 時：平成 24 年 1 月 28 日

場 所：霞ヶ関ビル 3 5 階 東海大学校友会館

1、報告事項

(社) 日本耳鼻咽喉科学会 福祉医療・老年委員会

平成 22・23 年度事業報告

平成 24 年度事業計画

2、講演

構音障害の診断と治療

3、協議事項

①補聴器診療情報提供書について

24 年 6 月愛媛で行われる補聴器キーパーソン会議で詳細の発表予定

②補聴器給付について

小児の軽度・中等度難聴者の補聴器給付に関して

都道府県・市町村単位で全国的に取り組んでいる

秋田県、岡山県、大阪府、長野県、川崎市、京都市、広島市、千葉県いすみ市

埼玉県戸田市、高知県高知市、島根県浜田市、福島県本宮市、三重県

北海道十勝支庁管内、新潟県三条市、大阪府堺市、大阪市

成年（高齢者）への補聴器助成

福岡県粕屋町、東京都（葛飾区、中央区、江東区、大田区、新宿区）

千葉県浦安市、埼玉県鳩山市、茨城県古河市、愛知県（北名古屋市、小牧市）、

福島県二本松市、栃木県足利市、岩手県大船渡市、田川市

平成 24 年日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医更新者

更新予定者総数 159 名

更新者	福岡地区	北九州地区	筑後地区	筑豊地区	合計
	66	24	27	8	125
	(83.5%)	(88.9%)	(62.8%)	(80%)	(78.6%)
非更新者	13	3	16	2	34

平成 23 年度福祉医療・乳幼児担当者全国会議

日 時： 平成 24 年 1 月 29 日
場 所： 東海大学校友会館
出席者： 川口 博、原 崇

1. 24 年度事業計画

- ・乳幼児聴覚検診の実態把握に努め、問題点を調査し、精密聴力検査に関する円滑なシステム作りを考える。
- ・新生児聴覚スクリーニング（以下新スク）検査後の精密聴力検査機関リストの整備。
- ・小児人工内耳手術適応基準の改訂についての調査。 など

2. 22 年度 3 歳児聴覚検診アンケート調査報告

問診票+ささやき声による自己検査の厚労省方式を 31 都府県では 100%の自治体が採用していた。7 道県では採用率が 80%以下で、福岡県は依然として低率であった。

今回の調査でも 31 名の両側感音難聴児が検出されている。新スクの普及で難聴児の早期発見は進んだ。しかし新スクをパスした児、あるいは未受検の児に対して、その後いかに効率よく診断ルートに載せ、その精度を高めるかが問題点である。

3. 1 歳 6 カ月、3 歳児聴覚検診リーフレット

保健師、小児科医など実際に健診を行う人を対象とした手引書を作成し全自治体に配布した。耳鼻科医の対応マニュアルも作成した。これらは日耳鼻 H.P.からも入手できる。

4. 人工内耳ホームページの更新

一般向けには原理・適応・注意点などを、会員向けには手術データなどを示す。

5. 新スク後の精密聴力検査機関実態調査について

refer と診断された 3/4 が生後 3 か月以内に精密聴力検査機関を受診していた。1/4 が両側難聴、1/4 が一側難聴、1/2 が正常と診断された。

6. 乳幼児福祉医療におけるこれからの課題

- ・睡眠時無呼吸

児童の 30%にいびき、1~3%に SAS がある。重症例では、上顎・下顎骨の発育抑制を生じないように 6 歳までに扁桃+アデノイド切除を行う。

- ・言語発達障害

3 歳までに脳重量は急速に増大して、5 歳までに母国語が確立すると言われている。聴力障害による言語発達障害なのに、知的障害として扱われた例もある。

【平成 23 年度産業・環境保健委員会活動報告】

委員長 鈴木秀明

I. 活動報告

1) 選別聴力検査実務講習会

平成 23 年 1 月 21 日（東京）と平成 23 年 9 月 2 日（大阪）の 2 回開催された。
受講者数はそれぞれ 142 名と 89 名であった。

2) 昨年度日耳鼻ホームページに掲載した日耳鼻認定騒音性難聴担当医の名簿を 更新し、日耳鼻事務局に提出した。同ホームページで公開している。

3) 純音聴力検査講習会

平成 23 年 11 月 21～22 日に東京で開催された。参加人数は 48 名であった。

4) 第 20 回日耳鼻産業環境保健講習会（騒音性難聴の部）

平成 24 年 1 月 26～27 日に東京で開催された。参加人数は 63 名であった。

5) 日耳鼻騒音性難聴担当医の産業医の分野での活用について、福岡県医師会産業 保健担当理事と地域産業保健センターへの登録などについて引き続き話し合い を行った。また、福岡県産業保健推進センターとも随時情報交換を行っている。

6) 平成 22・23 年度 第 4 回日耳鼻産業・環境保健委員会

平成 23 年 7 月 21 日（木）に東京で開催され、鈴木委員が出席した。当委員会の
今後の活動のあり方について話し合いが行われた。

7) 平成 22・23 年度 第 5 回日耳鼻産業・環境保健委員会

平成 24 年 1 月 28 日（土）に東京で開催され、鈴木委員が出席した。平成 23 年度
日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議についての審議が行われた。

8) 平成 23 年度日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議

平成 24 年 1 月 28 日（土）に東京で開催され、委員長鈴木、鳥居委員、金崎委員
が出席した。内容は下記の通りである。

II. 日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議報告

平成 23 年度日耳鼻産業・環境保健委員長会議は、平成 24 年 1 月 28 日（土）に
東京都千代田区霞ヶ関 東海大学校友会館で行われた。テーマは「日耳鼻産業・環境
保健活動の現状と展望について」であった。

プログラムは以下の通りで、内容の詳細は福耳会ニュースに掲載する予定である。

- 13:00～ 開会の辞 日耳鼻産業・環境保健担当理事 高橋晴雄
理事長挨拶 日耳鼻理事長 八木聰明
黙祷（志多 享日耳鼻顧問、平成 23 年 2 月 13 日逝去）
- 13:05～ 講演「労働衛生行政の動向について」
厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長 椎葉茂樹
- 13:35～ 日耳鼻産業・環境保健委員会報告
- 1) 1年間の活動報告 調所委員長
2) 「騒音障害防止のためのガイドライン」の改定について 原相談
3) 50 人未満騒音職場の騒音性難聴防止対策現状報告第 6 報 和田委員
4) 騒音性難聴担当医名簿の更新について 調所委員長
5) 質疑
- 14:35～ 地方部会産業・環境保健委員会報告
- 1) 埼玉県
2) 千葉県
3) 愛知県
- 15:30～ 閉会の辞 日耳鼻産業・環境保健担当理事 村上信五

【平成 23 年度医事問題委員会活動報告】

委員長 西平 修

① 平成 23 年度 福岡県地方部会・福耳会合同医事問題委員会(第 1 回)

平成 23 年 8 月 23 日(火) 博多都ホテルにて

議題

- 1) 第 36 回日耳鼻医事問題セミナーについての報告
- 2) 福耳会学術講演会について
日耳鼻医事問題委員会委員(沖久・村塚先生)に医療事故事例に関する講演(10 月 22 日)を依頼
- 3) 平成 23 年度(7 月末まで)の福岡県耳鼻咽喉科医療事故事例(3 件)についての検討

② 平成 23 年度福岡県地方部会・福耳会合同医事問題委員会(第 2 回)

平成 23 年 11 月 15 日(火) 第一三共(株)九州支店

議題

- 1) 福耳会講演会(10 月 22 日)について
- 2) 平成 23 年度福岡県耳鼻咽喉科医療事故事例(5 件)についての検討
- 3) 今後の委員会活動について

③ 第 36 回日耳鼻医事問題セミナーについて

平成 23 年 6 月 18 日(土)、19 日(日) 弘前にて

出席者 西平・村塚

- 1) 青森県地方会医事問題アンケート調査結果報告
医事紛争を経験したことがあるのは勤務医に多い(26%)
手術、処置の承諾書の有無については開業医は特別な場合を除いては取っていない
救急救命に関してのトレーニングを開業医は半数しか受けていない
Ai については 70%が知っていたが、ADR については 75%が知らなかった
- 2) ADR(医療裁判外紛争解決)
現在、医療過誤で民事の問題となるのが年間 10 万件
そのうち ADR を行うのが 1 万件、提訴されるのが 1000 件
ただ現在の訴訟は減少傾向であり、耳鼻科に関しては年間 70~80 件である
- 3) Ai(死亡時画像診断)の現状(三重大学での例)
三重大学では心肺停止時に CT を行い、その費用は大学負担である。実施するのは入院の 5%程度であるが、正確な死亡原因の判断が可能で、安全な剖検ができる反面トラブルの元となるなど、悪用される危険性がある

④ 平成 23 年度日耳鼻医事問題ワークショップ

平成 24 年 1 月 28 日(土) 東海大学校友会館について

出席者 西平 修

平成 23 年度発生した医療事故は 69 件で例年と比べて変化はない

耳、鼻、口腔、咽喉頭、頭頸部腫瘍領域にわけて、各々の事例について詳しく検討を行った

【平成 23 年度広報委員会活動報告】

委員長 末田 尚之

平成 23 年度福岡県地方部会広報委員会会議

日 時：平成 24 年 3 月 15 日（木）19:30～

場 所：博多都ホテル 3F「桂の間」

議 題

- (1) 前年度の活動報告
- (2) 福岡県地方部会ホームページの拡充について
- (3) 広報委員会の在り方について

議事内容

(概要)

(1) 前年度の活動報告

- ・東日本大震災に対する福岡県地方部会長から被災地へのお見舞い及び東北大学耳鼻咽喉科学教室小林教授よりそのお礼
- ・耳鼻咽喉科医療機関（病院）の情報提供
各大学関連病院の診療状況（診療日・診療時間）の情報を提供
- ・福岡県地方部会ホームページ：<http://www.fukuoka-jibika.com/>

(2) 福岡県地方部会ホームページの拡充について

- 1) 各委員会の活動報告の概要をホームページ上に掲載を予定
 - ・各委員会に依頼し活動報告の議事録を作成してもらい、ホームページ上でも閲覧可能にする
- 2) 会員用サイト併設の検討
 - ・会員用パスワードを設定し、一般用とは異なる情報を掲載する
福岡県地方部会主催で行われる学術講演会の演題名
日本耳鼻咽喉科学会から発信される情報の抜粋

(3) 広報委員会の在り方

(結論)

福岡県地方部会ホームページを利用した情報提供の継続を引き続き行う。
提供可能な情報を拡げるためホームページを拡充させる方向で検討。